

2020年(令和2年)8月7日(金曜日)

2020年(令和2年)8月14日(金曜日)



お互いさま、おかげさま

私たちは、互いに助け合い、支え合っていることを「お互いさま」という言葉で表現します。自分がお世話になっていることや、他人に奉仕することの大切さを自覚していたから、こうした丁寧な言い方をするようになったのでしょうか。

また、周りにいる人だけでなく、すでに亡くなった人々や自然に対しても感謝の気持ちを表すために「おかげさま」といいます。「陰」とは陽(ひ)の当たらないところであり、目立たな

道徳で人と社会を幸せに

い、隠れているという意味です。直接自分の目で見たり、触れたりすることはできないけれど、生活を陰で支えてくれるものに対して「おかげ」というのです。「お互いさま」や「おかげさま」は、謙虚さや反省の心を引き出してくれる、大切な言葉です。毎日の生活の中でも、多くの人々に支えられていることに感謝し、折に触れてこれらの美しい言葉を思い起こしてみませんか。

「ニューモラルの心を育てる言葉」3.6.6日  
「道徳」教科化—ヒントの泉

掲載日から2日間限定で10名様に**プレゼント!**  
道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号  
住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。  
公益財団法人モラロジー研究所 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1  
E-mail: book@moralogy.jp TEL: 04-7173-3155



他者の過失も、自分を見つめ直す機会に

生じてしまった事態は、再び元に戻すことはできません。問題が生じたときは、そうした自覚に立ち、未来に向けて積極的に事態の改善に取り組むことが大切です。

これは、自分の過失によって生じた問題であれば、素直に自分の非を認め、深く反省して責任ある態度を取るといふことです。また、たとえ自分に非のない場合でも当事者を責めることなく、これを機に、日ごろの自分を見つめ直してみるのです。そう

道徳で人と社会を幸せに

するうちに相手と心が通い合い、力を合わせて、解決と成長への確かな一歩を踏み出せるでしょう。そうした謙虚さは、物事が順調に進んでいるときにこそ必要な姿勢でもあります。その心づかいの積み重ねによって、自分自身の人間性や創造力、粘り強く努力する力が高まり、周囲とも円滑な人間関係を築いていけるのではないのでしょうか。

「ニューモラルの心を育てる言葉」3.6.6日  
「道徳」教科化—ヒントの泉

掲載日から2日間限定で10名様に**プレゼント!**  
道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号  
住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。  
公益財団法人モラロジー研究所 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1  
E-mail: book@moralogy.jp TEL: 04-7173-3155

2020年(令和2年)8月21日(金曜日)



周囲の喜びは自分の幸せ

人は「幸せ」という人生の大目標に向かって、一人ひとりが一生懸命に生きています。ところが私たちは「自分の幸せ」を追い求めるあまり、つい他への配慮を忘れてしまうことがあります。そんなときは積極的に、みずから犠牲を払ってでも「周囲を喜ばせよう」という行動に踏み出していきたいものです。「犠牲を払って」というと、なんだか損をするように感じられるかもしれませんが、周囲の喜びのために努力をし

道徳で人と社会を幸せに

ていけば、周りの人が「幸せ」になり、その幸せな人に囲まれている自分も「幸せ」になるのです。また、応援してくれる人もきつと現れるでしょう。「情けは人のためならず」「損して得取れ」と言われる所以ゆえんです。大切なことは、心のベクトルを自分自身の「よい生活」に向けるのではなく、周りに喜びを与える「よい人生」に向けていくことなのです。

「道徳」教科化—ヒントの泉

『ニューモラルの心を育てる言葉366日』

掲載日から2日間限定で10名様に**プレゼント!**  
道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号

住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。  
公益財団法人モラロジー研究所 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1  
E-mail: book@moralogy.jp TEL: 04-7173-3155

2020年(令和2年)8月28日(金曜日)



身は父母の遺体なり

私たちの父母が「一組の男女」として出会う確率から考えていくと、一人ひとりのいのちが誕生する確率は、奇跡に近いほど小さなものであるといえます。家庭とは、その貴重ないのちを育み、いのちをつないでいくという、たいへん神聖な場です。

中国の古典『礼記(ういき)』(祭義篇)には「身は父母の遺体(いたしなり)」とあります。遺体とは「私の肉体は父母が遺(のこ)した身体である」という意味で

道徳で人と社会を幸せに

す。つまり、自分の体は決して自分だけの所有物ではなく、祖先から連綿と引き継がれてきたものであるといえます。こうした「生命の連続」を、代々支えてきたのも、父母や祖父母、きょうだい、祖先をはじめとする家族であり、その生活の場である家庭です。だからこそ、私たちは家族や家庭を大切にしなければならぬのではないのでしょうか。

「道徳」教科化—ヒントの泉

『ニューモラルの心を育てる言葉366日』

掲載日から2日間限定で10名様に**プレゼント!**  
道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号

住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。  
公益財団法人モラロジー研究所 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1  
E-mail: book@moralogy.jp TEL: 04-7173-3155

2020年(令和2年)9月4日(金曜日)

**心** 一人ひとりの「愛語」を集めて

日本における曹洞宗(そうとうしゆ)の開祖・道元禪師(どうげんぜんじ)(1100~1153)は、「愛語(あいご)とこうのは、衆生(しゆじゆう)に対しても慈愛(じあい)の心をおこし、思いをかけて愛(あい)を語る(か)ことである。(中略)愛語(あいご)は、愛する(あいする)心(こころ)からおこるのであり、愛する(あいする)心(こころ)は、慈(じ)い(い)つく(つく)し(し)みの心(こころ)を種(たね)として(して)いる(い)るのである。愛語(あいご)は、まことに天下(てんか)の時勢(ときせい)を変(か)える(え)る(る)だけの力(ちから)のある(あ)る(る)ことを学(まな)ぶ(ぶ)べき(べき)である(である)」。現代語訳「正法眼蔵」大蔵出版(だざいしゅつぱん)という言葉(ことば)を残(のこ)して(して)います(います)。

道徳で人と社会を幸せに

人は温かい言葉をかけられると、勇気を得たり、自分の可能性を発見したり、喜びを見つけたります。また、それは巡り巡って温かい言葉を発した人自身の喜びにもつながるでしょう。こうして一人ひとりが周囲の人に温かい言葉をかけることで、社会はよい方向へと向かうのではないでしょう。その力はわずかかもしれませんが、集まれば、大きな力になるのです。

「道徳」教科化—ヒントの泉

「ニューモラル」の心を育てる言葉3.6.6日

掲載日から2日間限定で10名様に**プレゼント!**

道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号

住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。

公益財団法人モラロジー研究所 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1

E-mail: book@moralogy.jp TEL: 04-7173-3155

2020年(令和2年)9月11日(金曜日)

**心** 幸せな結婚生活の秘訣

別々の人生を歩んできた二人が、結婚を機に生活を共にしていく。そこには誰もが「幸せ」を求めるものですが、時には夫婦で意見が食い違うこともあるでしょう。また、家事や育児、仕事などのさまざまな面で、相手を助けることも、相手に助けられることもあるでしょう。自分だけの幸せを願っても、うまくいくものではありません。幸せな結婚生活の秘訣(ひけつ)は、「相手を幸せにしよう」と努力(どりょく)することではないでしょう。

道徳で人と社会を幸せに

うか。相手を大事にするから、自分も大事にされるのです。相手を幸せにできた分、自分も幸せになるということを、忘れないようにしたいものです。それは、夫婦二人だけの問題ではありません。それぞれの両親をはじめ、二人の円満な結婚生活を喜び、安心してくれる人たちがいるなら、二人分よりもっと大きな「幸せ」がやってくるというのではないのでしょうか。

「道徳」教科化—ヒントの泉

「ニューモラル」の心を育てる言葉3.6.6日

掲載日から2日間限定で10名様に**プレゼント!**

道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号

住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。

公益財団法人モラロジー研究所 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1

E-mail: book@moralogy.jp TEL: 04-7173-3155

2020年(令和2年)9月25日(金曜日)

**心** 日々、感謝とねぎらいを

「働くってのはね、はたをうらぐにしてやることさ。」(山本有三著「路傍の石」)この言葉に見るように、働くとは周囲の人を喜ばせ、人を支え、社会の役に立つことです。私たち自身の生活も、他の人々の働きにより支えられています。私たちは働くことで互いに支え、支えられているのです。さらに突き詰めると、働くことには社会の恩に報いるという意味もあるでしょう。自分の働きが他人や社会の役に立っていると感じ、社会の恩に対する感謝の心を持ったと

道徳で人と社会を幸せに

また、私たちがそのことを実感するのは、感謝の言葉をかけられたときではないでしょうか。私たち自身も日々、周りの人に対して「いつもありがとう」「苦勞(くろう)さま」という感謝やねぎらいの気持ちをも多く伝えていきたいものです。そうすることで、皆が生き生きと働ける、明るく潤いある社会が築かれていくでしょう。

「道徳」教科化—ヒントの泉

「ニューモラル」の心を育てる言葉3.6.6日

掲載日から2日間限定で10名様に**プレゼント!**

道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号

住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。

公益財団法人モラロジー研究所 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1

E-mail: book@moralogy.jp TEL: 04-7173-3155